

(別紙様式 1-1) プロジェクト研究 1 次評価表

事前評価用

それぞれの観点について該当する配点の数値を で囲んで下さい。
 研究員氏名 _____

申請番号		課題名:		
		主研究者:		
観点	評価項目		判定基準	配点
必要性	脳研センターの「研究の柱」に照らした妥当性	a	研究課題は「研究の柱」に合致している	2
		b	研究課題は「研究の柱」に間接的に合致している	1
		c	研究課題は「研究の柱」に合致していない	0
	独創性、先導性など科学的意義に照らした妥当性	a	独創性、先導性など科学的意義は高い	2
		b	独創性、先導性など科学的意義はある	1
		c	独創性、先導性など科学的意義は低い	0
小計				
有効性	研究課題の達成可能性に照らした妥当性	a	達成可能性は高い	2
		b	達成可能性はある	1
		c	達成可能性は低い	0
	予想される成果の妥当性	a	予想される成果は大きい	2
		b	予想される成果はある	1
		c	予想される成果は小さい	0
小計				
効率性	研究計画の妥当性	a	研究スケジュール、予算等研究計画書は適正である	2
		b	研究スケジュール、予算等研究計画書はおおむね適正である	1
		c	研究スケジュール、予算等研究計画書は検討の余地がある	0
	研究体制の妥当性	a	必要な研究員、技師の effort は妥当である	2
		b	必要な研究員、技師の effort はおおむね妥当である	1
		c	必要な研究員、技師の effort には問題がある	0
小計				

「エフォート」とは……「研究者の年間の全仕事を100%とした場合の当該研究の実施に必要とする時間の配分率(%)」のことをいう。

(別紙様式 1-2) プロジェクト研究 1 次評価表

中間評価用

それぞれの観点について該当する配点の数値を で囲んで下さい。
 研究員氏名 _____

申請番号		課題名:		
		主研究者:		
観点	評価項目		判定基準	配点
必要性	脳研センターの「研究の柱」に照らした妥当性	a	研究課題は「研究の柱」に合致している	2
		b	研究課題は「研究の柱」に間接的に合致している	1
		c	研究課題は「研究の柱」に合致していない	0
	独創性、先導性など科学的意義に照らした妥当性	a	独創性、先導性など科学的意義は高い	2
		b	独創性、先導性など科学的意義はある	1
		c	独創性、先導性など科学的意義は低い	0
小計				
有効性	研究課題の達成可能性に照らした妥当性	a	達成可能性は高い	2
		b	達成可能性はある	1
		c	達成可能性は低い	0
	予想される成果の妥当性	a	予想される成果は大きい	2
		b	予想される成果はある	1
		c	予想される成果は小さい	0
小計				
効率性	研究計画の妥当性	a	研究スケジュール、予算等研究計画書は適正である	2
		b	研究スケジュール、予算等研究計画書はおおむね適正である	1
		c	研究スケジュール、予算等研究計画書は検討の余地がある	0
	研究体制の妥当性	a	必要な研究員、技師の effort は妥当である	2
		b	必要な研究員、技師の effort はおおむね妥当である	1
		c	必要な研究員、技師の effort には問題がある	0
小計				

「エフォート」とは……「研究者の年間の全仕事を100%とした場合の当該研究の実施に必要とする時間の配分率(%)」のことをいう。

(別紙様式 1-3) プロジェクト研究 1 次評価表

事前評価用

それぞれの観点について該当する配点の数値を で囲んで下さい。

研究員氏名 _____

申請番号		課題名:		
		申請者:		
観点	評価項目	判定基準		配点
有効性	研究課題の目的達成度	a	計画以上または計画どおり達成している	2
		b	おおむね計画どおり達成している	1
		c	計画に掲げた研究課題の目的を達成していない	0
	研究成果の貢献度	a	診断や治療の方法, 県民福祉の増進および医学の向上に大きく貢献した	2
		b	診断や治療の方法, 県民福祉の増進および医学の向上に貢献した	1
		c	診断や治療の方法, 県民福祉の増進および医学の向上に貢献できていない	0
小 計				

(別紙様式 2-1) 研究課題事前評価調査

1. 研究課題名
2. 主研究者(所属): 役割分担
3. 共同研究者(所属): 役割分担【エフォート】
4. 研究の背景(今何故この研究が必要なのか)
5. 研究の目的(この研究で, 何をどのような状態にしたいのか)
6. 研究の対象
7. 本研究の国内, 国外の現状
8. 研究の独創性
9. 研究の脳研にもたらす効果(県民に対する貢献を含む)
10. 研究計画・方法
11. 研究に要する費用と内訳(年度毎に, 具体的に)
12. 予想される結果
13. 研究遂行のための準備状況
14. 倫理的配慮
15. 発表する学会・雑誌

(別紙様式 2-2)

評価表(事前評価)

研究課題名

主研究者(研究期間)

1 次評価	観点	評価項目	配点計	平均点	評価結果
必要性		1 脳研センターの研究の柱に照らした妥当性			A B
		2 独創性, 先導性など科学的意義に照らした妥当性			
有効性		3 研究課題の目的達成可能性			A B
		4 予想される成果の妥当性			
効率性		5 研究費の妥当性			A B
		6 研究体制の妥当性			

平均点は少数第 1 位まで。評価結果および総合評価結果は, A, Bいずれかを で囲む。

【総合評価】

A 妥当性はある(総合評価がB以外)

B 妥当性は低い(いずれかの評価結果がB)

2 次評価	研究部門運営会議意見		
	研究局長評価	A 妥当性はある	B 妥当性は低い

(別紙様式3-1) 研究課題中間評価調書

1. 研究課題名	8. 研究の目的達成可能性(予想外の技術的な問題が発生していないか, 目的を達成できる見込みか)
2. 主研究者(所属): 役割分担	9. 研究の進捗状況(計画どおりの進捗になっているか, 著しい遅れはないか)
3. 共同研究者(所属): 役割分担【エフォート】	10. 研究を取り巻く環境の変化(研究の内容や成果の需要など研究の必要性に変化はないか)
4. 研究の目的(この研究で, 何をどのような状態にしたいのか)	11. 研究費用(計画どおりか, 増額しなければならないか)
5. 研究の対象	12. 研究体制(欠員が生じていないか, 研究体制に問題がないか)
6. 研究期間	13. その他
7. 研究のスケジュール(事前評価段階のスケジュール)	

(別紙様式3-2)

評価表(中間評価)

研究課題名

主研究者(研究期間)

1次評価	観点	評価項目	配点計	平均点	評価結果
必要性		1 脳研センターの研究の柱に照らした妥当性			A B
		2 独創性, 先導性など科学的意義に照らした妥当性			
有効性		3 研究課題の達成可能性に照らした妥当性			A B
		4 研究課題を取り巻く状況の変化に照らした妥当性			
		5 研究の進捗状況に照らした妥当性			
効率性		6 研究費の妥当性			A B
		7 研究体制の妥当性			

平均点は少数第1位まで。評価結果および総合評価結果は, A, Bいずれかを で囲む。

【総合評価】 A 研究を継続する上で特に問題はない(総合評価がB以外) B 研究を継続する上で問題が大きい(いずれかの評価結果がB)

2次評価	研究部門運営会議意見
	研究局長評価 A 特に問題はない B 問題が大きい
	(引き続き研究を継続すべきか, 計画の改善が必要か, 計画を縮小・廃止すべきか, などの視点でコメント)

(別紙様式4-1) 研究課題事後評価調書

1. 研究課題名	7. 研究に要した総費用
2. 主研究者(所属): 役割分担	8. 研究の手段およびスケジュール(どのような手順で, どのような日程で研究を進めたか)
3. 共同研究者(所属): 役割分担	9. 研究の目的達成状況(当初の計画に掲げた目的を達成できたかどうかで, できなかった場合はその要因など具体的に記載)
4. 研究の目的(この研究で, 何をどのような状態にしたいのか)	10. 研究成果(研究成果はどのように活用されるのか, 県民との関わりや医学の向上などの視点で記載)
5. 研究の対象	
6. 研究期間	

(別紙様式2-2)

評価表 (事後評価)

研究課題名

主研究者 (研究期間)

1次評価	観点	評価項目	配点計	平均点	評価結果
	有効性	1 研究課題の目的達成度			
		2 研究成果の貢献度			
					A B

平均点は少数第1位まで。評価結果および総合評価結果は、A, Bいずれかを で囲む。

【総合評価】 A 妥当性はある (総合評価がB以外) B 妥当性は低い (いずれかの評価結果がB)

2次評価	研究部門運営会議意見			
	研究局長評価	A 妥当性はある	B 妥当性は低い	

(別表1) 事前評価の基準

観点	評価項目	判定基準	配点	評価結果
必要性	脳研センターの「研究の柱」に照らした妥当性	a 研究課題は「研究の柱」に合致している	2	A: 必要性はある (研究の柱に照らした妥当性がaかbで2点以上) B: 必要性は低い (0~1点)
		b 研究課題は「研究の柱」に間接的に合致している	1	
		c 研究課題は「研究の柱」に合致していない	0	
	独創性, 先導性など科学的意義に照らした妥当性	a 独創性, 先導性など科学的意義は高い	2	
		b 独創性, 先導性など科学的意義はある	1	
		c 独創性, 先導性など科学的意義は低い	0	
有効性	研究課題の達成可能性に照らした妥当性	a 達成可能性は高い	2	A: 有効性はある (2点以上) B: 有効性は低い (0~1点)
		b 達成可能性はある	1	
		c 達成可能性は低い	0	
	予想される成果の妥当性	a 予想される成果は大きい	2	
		b 予想される成果はある	1	
		c 予想される成果は小さい	0	
効率性	研究計画の妥当性	a 研究スケジュール, 予算等研究計画書は適正である	2	A: 有効性はある (2点以上) B: 有効性は低い (0~1点)
		b 研究スケジュール, 予算等研究計画書はおおむね適正である	1	
		c 研究スケジュール, 予算等研究計画書は検討の余地がある	0	
	研究体制の妥当性	a 必要な研究員, 技師の effort は妥当である	2	
		b 必要な研究員, 技師の effort はおおむね妥当である	1	
		c 必要な研究員, 技師の effort には問題がある	0	

「effort」とは……「研究者の年間の全仕事時間を100%とした場合の当該研究の実施に必要とする時間の配分率(%)」のことをいう。

各観点の評価結果を踏まえた総合評価 (研究課題全体の妥当性) の基準

総合評価の区分	総合評価の基準
A 妥当性はある	総合評価の基準がB以外の場合
B 妥当性は低い	いずれかの観点の評価結果がBの場合

(別表2) 中間評価の基準

観点	評価項目		判定基準	配点	評価結果
必要性	脳研センターの「研究の柱」に照らした妥当性	a	研究課題は「研究の柱」に合致している	2	A: 必要性はある (研究の柱に照らした妥当性がaかbで2点以上)
		b	研究課題は「研究の柱」に間接的に合致している	1	
		c	研究課題は「研究の柱」に合致していない	0	
必要性	独創性, 先導性など科学的意義に照らした妥当性	a	独創性, 先導性など科学的意義は高い	2	B: 必要性は低い(0~1点)
		b	独創性, 先導性など科学的意義はある	1	
		c	独創性, 先導性など科学的意義は低い	0	
有効性	研究課題の目標達成可能性	a	研究目的は問題なく達成できる見込みである	2	A: 有効性はある(2点以上)
		b	大きな問題に直面しているが達成できる見込みである	1	
		c	研究目的は達成できない状況になっている	0	
有効性	研究課題を取り巻く状況の変化に照らした妥当性	a	研究の必要性に特に変化はない	2	B: 有効性は低い(0~1点)
		b	研究の必要性は低下している	1	
		c	研究の必要性は大幅に低下している	0	
有効性	研究の進捗状況に照らした妥当性	a	計画以上または計画どおり進捗している	2	A: 有効性はある(2点以上)
		b	おおむね計画どおり進捗している	1	
		c	計画より大きく遅れている	0	
効率性	研究計画の妥当性	a	当初の研究計画どおりである	2	A: 有効性はある(2点以上)
		b	若干の増が必要になっている	1	
		c	大幅の増が必要になっている	0	
効率性	研究体制の妥当性	a	必要な研究員, 技師の effort は妥当である	2	B: 有効性は低い(0~1点)
		b	必要な研究員, 技師の effort はおおむね妥当である	1	
		c	必要な研究員, 技師の effort には問題がある	0	

「エフォート」とは……「研究者の年間の全仕働時間を100%とした場合の当該研究の実施に必要とする時間の配分率(%)」のことをいう。

各委点の評価結果を踏まえた総合評価(研究課題全体の妥当性)の基準

総合評価の区分	総合評価の基準
A 研究を継続する上で特に問題はない	総合評価の基準がB以外の場合
B 研究を継続する上で問題が大きい	いずれかの観点の評価結果がBの場合

(別表3) 事後評価の基準

観点	評価項目		判定基準	配点	評価結果
有効性	研究課題の目的達成度	a	計画以上または計画どおり達成している	2	A: 有効性はある(2点以上)
		b	おおむね計画どおり達成している	1	
		c	計画に掲げた研究課題の目的を達成していない	0	
有効性	研究成果の貢献度	a	診断や治療の方法, 県民福祉の増進および医学の向上に大きく貢献した	2	B: 有効性は低い(0~1点)
		b	診断や治療の方法, 県民福祉の増進および医学の向上に貢献した	1	
		c	診断や治療の方法, 県民福祉の増進および医学の向上に貢献できていない	0	

各観点の評価結果を踏まえた総合評価(研究課題全体の妥当性)の基準

総合評価の区分	総合評価の基準
A 妥当性はある	有効性の観点の評価がAの場合
B 妥当性は低い	有効性の観点の評価がBの場合